

Business Report

FY2009

Starbucks Coffee Japan, Ltd.



OUR STARBUCKS MISSION

To inspire and nurture the human spirit —
One person, one cup, and one neighborhood at a time.

人々の心を豊かで活力あるものにするために—
ひとりのお客様、一杯のコーヒー、そしてひとつのコミュニティから

Our Coffee

私たちは常に最高級の品質を求めています。

最高のコーヒー豆を倫理的に仕入れ、

心をこめて焙煎し、

そしてコーヒー生産者の生活をより良いものにすることに

情熱を傾けています。

これらすべてにこだわりをもち、追求には終わりがありません。

Our Partners

情熱をもって仕事をする仲間を私たちは「パートナー」と呼んでいます。

多様性を受け入れることで、一人ひとりが輝き、働きやすい環境を創り出します。

常にお互いに尊敬と威厳をもって接します。

そして、この基準を守っていくことを約束します。

Our Customers

心から接すれば、ほんの一瞬であってもお客様とつながり、

笑顔を交わし、感動経験をもたらすことができます。

完璧なコーヒーの提供はもちろん、

それ以上に人ととのつながりを大切にします。

Our Stores

自分の居場所のように感じてもらえば、

そこはお客様にとって、くつろぎの空間になります。

ゆったりと、時にはスピーディーに、

思い思いの時間を楽しんでもらいましょう。

人とのふれあいを通じて。

Our Neighborhood

常に歓迎されるスターバックスであるために、
すべての店舗がコミュニティの一員として責任を果たさなければなりません。
そのために、パートナー、お客様、そしてコミュニティがひとつになれるよう
日々貢献していきます。

私たちの責任と可能性はこれまでにもまして大きくなっています。
私たちに期待されていることは、これらすべてをリードしていくことです。

Our Shareholders

これらすべての事柄を実現することにより、共に成功を分かち合えるはずです。

私たちは一つひとつを正しく行い、

スターバックスとともに歩むすべての人々の繁栄を目指していきます。

これからも、いつまでも。



Our Coffee

私たちは常に最高級の品質を求めてています。

最高のコーヒー豆を倫理的に仕入れ、

心をこめて焙煎し、そしてコーヒー生産者の生活を

より良いものにすることに情熱を傾けています。

これらすべてにこだわりをもち、

追求には終わりがありません。



「スターバックスのコーヒーは、いつもおいしい」。私たちが自信を持ってそう言えるのには、確かな理由があります。

まず、スターバックスで使われるコーヒー豆は、厳選された最高級のアラビカ種のみということ。創業以来、変わらないこだわりを支えているのは、スターバックスと生産地の人々との良好な信頼関係です。“最高の一一杯”の元となるコーヒー豆を育むのは、世界各地のコーヒー生産者たち。生産者が安心してコーヒー豆を栽培できる環境なしに、“最高の一一杯”は生まれない——。私たちはそう

考えています。

スターバックスでは取り扱うコーヒー豆のすべてが責任を持って栽培され、倫理的に取引されることを目標としています。それを実現するため、私たちはコーヒー豆の購買に関する独自のガイドライン「C.A.F.E. ブラクティス」を設けており、また品質に見合ったプレミアム価格での買い付けを行っています。そして、主要な生産地であるラテンアメリカと東アフリカに「ファーマーサポートセンター」を設置し、生産農家への技術支援や運営資金の融資を行っているほか、病院や診療所の開設

すべては“最高の一一杯”を届けるために コーヒーにかけるスターバックスの情熱

など生産者の暮らしをサポートする社会開発プロジェクトにも力を注いでいます。

こうして育まれた最高級のコーヒー豆は、ロースターたちの熟練した技術によって焙煎されます。そのコーヒー豆を“最高の一一杯”としてお客様に提供するのは、パートナーの役目です。パートナーたちはみな、いつも変わらぬ一杯をお客様に届けるため、豆の挽き方やお湯の温度、マシンの

メンテナンスなどに細心の注意を払いながら、その一杯に思いを込めるのです。

スターバックスのコーヒーが、いつもおいしい理由。それはスターバックスのコーヒーに関わるすべての人々が、それぞれ特別な思いを持って“最高の一一杯”的にベストを尽くしているからにほかなりません。コーヒーに対するこだわりと情熱。それは私たちの誇りであり、最大の強みなのです。



生産地の一つ、タイのソンボイ村に設立された診療所。パートナーとお客様が一丸となって、設立資金を集めました。コーヒー生産者、住民のよりよい未来への希望となりました。

コーヒーにまつわるすべてのストーリーを理解したとき、最高のサービスも生まれる



北森 晴香

2002年、アルバイトとして入社。名古屋の店舗に勤務後、アトレ目黒1店のアシスタントマネージャーに。09年、アンバサダーカップに優勝し、1年間、コーヒーアンバサーとして社内外で啓発活動を行っている。

**Q 「コーヒーアンバサー」とは何ですか？
また、どのような活動を行っているのですか？**

A コーヒーの知識や接客のスキルを競う「アンバサダーカップ」の優勝者に与えられる称号です。アンバサーの役割は社内外でのさまざまな活動を通してコーヒーの魅力を伝えること。全国のパートナーに豆が生産地から日本に届くまでを解説するセッションを各地で開催するほか、新しいフードなどの開発にも携わっています。

Q スターバックスにはいつも“最高の一一杯”がある理由を教えて下さい。

A スターバックスが扱うコーヒー豆は最高級のアラビカ種。中でも標高の高い地域でゆっくりと熟成された豆のみを厳選しています。生産者が大切に手摘みした豆は、ロースターが豆本来のおいしさを最大限に引き出しながら焙煎し、パートナーが思いを込めて提供します。このような品質へのこだわりとコーヒーに関わるすべての人々の情熱、それが“最高の一一杯”を生み出しているのです。

Q アンバサーの活動の中で生産者の方に会われたそうですが、どんな感想を持ちましたか？

A 日本に招かれたコスタリカのコーヒー農園主の方と彼が育てたコーヒーをともに味わい、直接「おいしかった」と伝えられたのは、とても貴重な経験でした。「スターバックスのコーヒーを育てていることを誇りに思う」という彼の言葉に、「生産者の思いが凝縮されたコーヒーを、一人でも多くのお客様に届けたい」という気持ちが一段と強まりました。

Our Partners

情熱をもって仕事をする仲間を私たちは
「パートナー」と呼んでいます。
多様性を受け入れることで、一人ひとりが
輝き、働きやすい環境を創り出します。
常にお互いに尊敬と威厳をもって接します。
そして、この基準を守っていくことを約束します。



スターバックスに関わるすべての人々に喜びを提供し、活力と栄養を与える。そのため、私たちスターバックスは、“ビープルビジネス”という考え方に基づいて、“最高の一一杯”を求め続けています。

スターバックスとそこで働く人々との関係は、まさにそんな企業精神の象徴と言えるでしょう。スターバックスで働くすべての人々は、“パートナー（従業員）”と呼ばれます。なぜなら一人ひとりがスターバックスにとってかけがえのない資産であり、ブランド

を共に築き上げていく文字通りのパートナーだからです。

「最高級のコーヒーを、最高の形でお客様に提供するために、私たちは何をすべきか」。スターバックスのパートナーは常にその命題と向き合い、よりよい答えを見つけるための努力を続けています。そこで彼らの手本となるのが、共に働く仲間の存在です。サービスにマニュアルを持たないスターバックスでは、エプロンを身にまとい、優れたホスピタリティを発揮するパートナーの姿が生きた手本となるのです。多様

スターバックスのミッションを実践する “ブランドの顔”、それがパートナーです

な個性を持った人と人が触れ合うとき、そこには新しい絆が生まれます。そして互いに高め合い、助け合い、成長しながら、それぞれが“最高のホスピタリティ”を学んでいく——。スターバックスのおもてなしは、こうして育まれているのです。

スターバックスでは、主体的に考え、行動するパートナーがさらにスキルを磨き、より快適に働けるように最善の環境を創り出しています。

約80時間におよぶ研修やコーヒーの専門知識をより深めるためのプログラムなどもその一環で

す。パートナーの飽くなき向上心とコーヒーへの情熱を支える姿勢、それは創業当初から変わることのないスターバックスの文化なのです。

すべてはお客様の満足のために——。そんなパートナーの情熱は、一杯のコーヒーを“かけがえのない体験”へ変えるのです。そしてお客様からいただく最高の笑顔は、パートナーの喜びと活力へと変わっていく。全国の店舗で日々、繰り返されるそんなプラスのサイクルを原動力に、スターバックスはこれからも成長を続けていきます。

スターバックスのおもてなしの基本、それはお客様を心から大切に思う気持ちです

張本 尚子

2001年入社。08年より銀座みゆき通り店のストアマネージャーを務める。09年、年間を通じてもっとも優れた店舗のストアマネージャーに贈られる「マネージャー・オブ・ザ・イヤー」に選出される。



Q 「マネージャー・オブ・ザ・イヤー」に選ばれたときの気持ちをお聞かせください。

A 選考の際には売り上げなどの数字だけではなく、パートナーの意欲や店舗全体の一体感も評価の対象になると聞いています。ただ、私自身は何か“特別なこと”をしたつもりはないのです。一人ひとりが、スターバックスというブランドの顔を担うパートナーであることを常に意識しながら行動し、「お客様にもっと満足してもらいたい」というシンプルな課題に対して、それぞれ当たり前の努力を毎日続けてきました……。そんな実感があります。ですから、パートナーを含めた店舗全体を高く評価していただいたということを、何よりもうれしく思いましたね。

Q スターバックスのストアマネージャーとしてもっとも充実する瞬間とは？

A 「スターバックスのミッションをサービスという形で実践しよう」。そんな一人のパートナーの提案が他の仲間の意識を変え、次々と自発的なアクションを生む。そうやってお互いに成長し合うパートナーの姿を目にしたときですね。

Q スターバックスのパートナーならではのおもてなしのあり方を教えて下さい。

A もっとも重要なのは“思いやり”です。それはお客様との対話を生み、新たなニーズの発見や満足度につながります。スターバックスが生産者やパートナーを大切にするように、私たちもお客様を心から大切にしているのです。

Our Customers

心から接すれば、ほんの一瞬であっても
お客様とつながり、笑顔を交わし、
感動経験をもたらすことができます。
完璧なコーヒーの提供はもちろん、
それ以上に人ととのつながりを大切にします。





クレーム ブリュレ マキアート

Crème Brûlée Macchiato

フランス語で“焦がしたクリーム”を意味するお菓子「クレーム ブリュレ」を表現したビバレッジ。芳醇なエスプレッソの風味とバニラの香りにピターカラメルソースのほろ苦さが調和する大人の味わいです。

チェリーのクラフティ

Cherry Clafoutis

サクサクのパイ生地に2種類のチエリーを並べ、濃厚なアバレイユ生地とともに焼き上げた手作り感あふれるデザート。コーヒーのおいしさを引き立てる素朴な味わいが魅力です。



ほうじ茶 ティー ラテ

Hojicha Tea Latte

2009年は人気の高い「ティーラテ」のラインナップを拡充しました。「ほうじ茶 ティー ラテ」もその一つ。日本伝統の味をスターバックス風にアレンジした日本限定ビバレッジです。

心がはずむ“スターバックス体験”を求めて 訪れるお客様のために私たちができること

スターバックスに一歩足を踏み入れると、まず目に飛び込んでくるパートナーの笑顔。そして漂うコーヒーの豊かな香り。温かい光を放つ照明、体を包み込むソファのぬくもり、心地良いBGM……。それらはすべて、お客様に心からくつろいでいただくための細やかな気配りと演出です。

スターバックスは“最高の一杯”をより美味しく楽しんでいただくために、あらゆる努力を惜しまません。たとえば、日本の風土や伝統を意識したビバレッジの積極的な開発やコーヒーの風味を引き立てるフードの提案。そして人と人とのコミュニケーションを促すユニークなキャンペーンの数々。私



キャラメル エクレール ラテ

Caramel Éclair Latte

フランスのお菓子“エクレール”にヒントを得て開発された日本発のホリデーシーズン限定ビバレッジ。リッチなキャラメルとブランーネナッツの香ばしさが溶け合う芳醇な味に仕上りました。

Wish On A Red Cup
あなたの Wish をかなえます

お客様から寄せられた“ねがいごと”的手伝いをするユニークなキャンペーン「Wish On A Red Cup」。厳選された10個の願いがスターバックスのサポートで実際にかなえられ、心あたたまる体験をお届けすることができました。

スターバックス カード
～ホリデー特別バージョン～

“WISH”の文字がデザインされた2009年クリスマスバージョンのスターバックスカードを、抽選でメール会員様2万名にプレゼントする企画を実施。たくさんのサイレンズメール会員様からご応募をいただきました。




スターバックス ディスカバリーズ® シリーズ

Discoveries

2009年はパッケージデザインをリニューアルし、新たに「サヴォワ【エスプレッソトリュフモカ】」がラインナップ。また、冬期限定商品の「ブロヴァンス【クレームブリュレラテ】」も好評をいただきました。



たちはお客様の心に活力と喜びをもたらすため、日々さまざまなチャレンジを続けています。

心がはずむスターバックス体験を求めてお店に足を運んでくださるお客様を、いつも最高の笑顔と心からのおもてなしで歓迎したい——。それは私たちの真摯な願いであると同時に、ブランドのミッ

ションもあります。私たちが何よりも大切にしていること、それは“人ととのつながり”です。ほんの一瞬であっても、笑顔を交わせば気持ちちは通じ合う。心と心で接すれば、人はもっとつながることができる。スターバックスのすべての感動体験は、人ととのつながりから始まっているのです。



Our Stores

自分の居場所のように感じてもらえば、
そこはお客様にとって、くつろぎの空間になります。
ゆったりと、時にはスピーディーに、
思い思いの時間を楽しんでもらいましょう。
人とのふれあいを通じて。

どこでも、誰にでも、居心地のいい空間 それが私たちの目指す“サード プレイス”

全国に880以上の店舗を持つスターバックス。けれどもその中には一つとして同じ店舗はありません。高層ビルが立ち並ぶオフィス街、若者たちでぎわうショッピングモール、多くのドライバーが訪れるサービスエリア、そして緑と自然に囲まれた公園の中。個性豊かなロケーションに呼応するように、そこを訪れる人々もまたさまざまな個性を持っています。ある人は忙しい朝、スピーディに

喉を潤す一杯のコーヒーを求めて。またある人は、気の置けない仲間と語らうひとときを求めて……。そんな多種多様なくつろぎの形に応えるため、私たちは外観のデザインから家具の一つに至るまで徹底したこだわりを貫いています。家庭や職場・学校に次ぐ第三の生活拠点。私たちはそんな“サード プレイス”を目指して、これからも新たなチャレンジを続けていきます。

淡路サービスエリア(下り線)店

Hyogo



最大の魅力は、紺碧の海にかかる明石海峡大橋、そして対岸に広がる神戸の街並を一望する絶好のロケーション。また、外壁や内装に

淡路島で生産された淡路瓦を使用しています。心のこもった一杯のコーヒーと美しい眺望が、お客様に最高のくつろぎを演出します。

千葉若松店

Chiba

木々の緑に囲まれた千葉若松店は、広々とした店内にドライブスルーを併設。お客様のニーズに合わせて多様なくつろぎの形を提供する癒しのスペースです。



新宿マルイ本館2階店

Tokyo



ライフスタイルにこだわりを持つ男女に向けたスターバックスの新しいコンセプトストアが新宿マルイ本館に登場。お客様をお迎えするのは知識と経験を兼ね備えたブラックエプロンのバ

リスト。コーヒーコンシェルジュカウンターも設置し、通常店舗にはないレアなコーヒー豆の販売やテイスティングなどワンランク上のコーヒー体験をお楽しみいただけます。

恵比寿ガーデンプレイス店

Tokyo

開放感と落ち着きが調和する空間がコーヒーの味を引き立てます。全世界のスターバックス新規店舗の中ですぐれたデザインの店舗に贈られる「ストアデザイン賞」を2009年度受賞しました。



宮島サービスエリア(下り線)店

Hiroshima



洒落な一軒家を思わせる片流れの大屋根が目印の宮島サービスエリア(下り線)店。木々の緑に囲まれ、世界遺産の宮島を見下ろしながら飲むコーヒーの味は格別です。ウッド調のオープンテラスにはペット用のリードフックをご用意。愛犬とともにコーヒーをお楽しみいただけます。

Our Neighborhood

常に歓迎されるスターバックスであるために、すべての店舗がコミュニティの一員として責任を果たさなければなりません。そのために、パートナー、お客様、そしてコミュニティがひとつになれるよう日々貢献していきます。私たちの責任と可能性はこれまでにもまして大きくなっています。私たちに期待されていることは、これらすべてをリードしていくことです。



お客様と交わした一言から始まった活動

～ペイスクエア津店「ホスピスでのお茶会ボランティア」～



ペイスクエア津店では月に一度、地域内のホスピスで開かれるお茶会などのボランティア活動をお手伝いしています。お茶会のため大量のコーヒー豆を購入していくボランティアの方にパートナーが声をかけたことから始まったサポートには、患者様から多くの笑顔と感謝の声をいただいています。

ドリンクの提供やお茶会などのイベントと一緒に参加

パートナー自身の環境意識を高める地域との交流

～福岡エリア参加「和白干潟の自然環境保護活動」～



毎月第4土曜日に行われる「和白干潟を守る会」の活動に、福岡県内の9店舗のパートナーたちが参加。海岸の清掃活動や野鳥観察を通して地域の人々との絆を深めるだけでなく、環境について学び、話し合う時間はパートナー自身の成長につながる貴重な機会にもなっています。

近隣店舗のパートナーと協力し、清掃活動を行う

パートナーたちの協力が育む地域活動

～橋本サティ店「養護学校でコーヒー教室を開催」～



地域とのコネクションを深める活動の一環として、橋本サティ店のパートナーが地域の養護学校中等部の教室を訪れ、授業に参加しました。当日はあいさつや接客、コーヒーのいれ方などをレクチャー。一方、生徒たちも校外学習として店舗を見学に訪れるなど、新たな交流が生まれています。

ハンドドリップに挑戦する生徒さんの表情は真剣そのもの

コミュニティとの交流活動

～カインズホーム青梅店「中学校の行事参加」～



近隣の中学校から生徒の職場体験を受け入れたことがきっかけで、中学校主催の草刈り活動へパートナーの参加が実現しました。作業後にお出したコーヒーや紅茶は生徒さんや保護者の方に大好評。パートナーにとっても、地域とのつながりを深める有意義な活動となりました。

草刈り活動を通じて生徒さんと仲を深めたパートナーたち

地域のしあわせと繁栄なしに スターバックスの成功はありません

地域とともに成長し、地域との信頼関係を築くためのパートナーの自主的な活動をスターバックスでは、“コミュニティ コネクション”と呼んでいます。そして、その取り組みを企業活動の大きな柱として大切にしています。その根幹には「いつも地域の人々に愛される良き隣人でありたい」という

私たちの思いがあります。

人々との絆やつながりを深めるスターバックスのコミュニティコネクションには、じつに多様な活動があります。店舗周辺のクリーンアップ活動や、店頭で集めたユーズド本の対価を寄付したり、自治体やボランティア団体が主催する活動への参加および、サ

ポート活動にも積極的に取り組んでいます。もちろん、パートナーの活動を企業としてバックアップする姿勢も忘れません。

活動において私たちが重視しているのが“パートナーの自主性”と“活動の持続性”です。実際、これまで行ってきた活動の多くはパートナー自身の発案や呼びかけ

によって実現しています。高い意識を持ったパートナーが継続して活動を行うことが、地域との絆をより強く、深いものにする。そして、それがスターバックスとお客様との関係を、より確かなものにしていく——。私たちはそう信じてこれまで、これからも日々の活動を続けていきます。

皆様の日頃のご支援に、心より感謝申し上げます。

当事業年度における当社の経済環境は、一部に景気の持ち直し傾向がみられるものの、失業率は高水準であり、「巣ごもり消費」に代表されるライフスタイルの変化など、依然として厳しい状況にあります。

このような環境の中、当社の既存店売上高対前年比は 94.7% となったものの、日本オリジナルの新商品の投入や立地を厳選した 35 店舗の出店などにより、売上高は 0.5% の增收となりました。また業務の効率化や様々なコスト削減努力により、経常利益は 14.9% の増益となり、当初の目標を上回る利益を計上することができました。

今後の先行きにつきましても、景気の穏やかな回復が期待されますが、一方で信用収縮やさらなる雇用情勢の悪化等により、景気が低迷を続けるリスクも懸念されます。2010 年度も、昨年度行ったコスト削減や業務の効率化は引き続き継続しつつ、お客様の期待をさらに超える感動をもたらせるような商品、サービスと空間を提供してまいります。

当社は、昨年度より「100 年後も光り輝くブランド」を旗印に、以下の 3 つのキーワードを掲げております。

- サステナブル グロース** Sustainable growth
(持続可能な安定的成長・収益基盤の強化)
- マーケット イノベーション** Market innovation
(革新性を持ってマーケットをリードし続ける)
- センター オブ エクセレンス** Center of excellence
(世界のスターバックスへ)

今後とも一人ひとりのパートナーが企業家意識(オーナーシップ)を持ち、チャレンジ精神を失わず、常にお客様に喜んでいただけるよう誠心誠意努力してまいります。

皆様の変わらぬご支援とご指導を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

岩田 松雄

代表取締役 最高経営責任者(CEO)

Our Shareholders

これらすべての事柄を実現することにより、
共に成功を分かち合えるはずです。
私たちは一つひとつを正しく行い、
スターバックスとともに歩む
すべての人々の繁栄を目指していきます。



会社の対処すべき課題

1

既存店舗の収益性を伴う成長

「最高のコーヒー」を機軸としたビバレッジやフード類を強化するとともに、お客様の視点に立って新しい商品の開発・投入を継続し、店舗内外でのコミュニケーションを通じてその魅力を訴求してまいります。また、サードプレイス環境を更に高める店舗改裝、店内サービスや商品の質をより向上させるための設備・機器類の導入及び教育プログラムの充実を戦略的かつ計画的に進めてまいります。このような取り組みにより、「スターバックス体験」を強化し、ブランド価値をより高めていくことで、差別化を図ってまいります。

2

魅力的な店舗開発の継続

より多くのお客様に「スターバックス体験」を提供しつつ、利便性をより高めることを目的といたします。多様なニーズを的確に捉えたうえで、ポートフォリオのバランスを勘案しつつ、様々な形態の魅力的な店舗の開発を進めてまいります。

3

イノベーションを加速する組織基盤の強化

中長期的な安定成長を目指し、革新性を持って市場をリードしてまいります。そのために、店舗・商品・サービスそれぞれの側面において日本オリジナルのイノベーションを創出する組織機能を総合的に強化してまいります。

4

戦略的な支出と収益体质の維持

「スターバックス体験」の質を更に高めるための戦略的な支出を加速いたします。また同時に、将来に向けた継続的な投資・支出を可能にするため、更なる効率化の取り組みを推進し、安定的な利益性の確保を図ります。

以上の施策を通じて、日本におけるスペシャルティコーヒー市場のリーディングカンパニーを目指します。



「SHARED PLANET(シェアード プラネット)」とは、
スターバックスが取り組んでいる環境・社会活動です。

シェアード プラネットの3本の柱

私たちの大切な住みかである地球を共有し、責任を分かち合いたい。
そのために、スターバックスが2015年までに達成したい
ゴールを3本の柱として掲げました。

倫理的な調達 ETHICAL SOURCING

責任をもって栽培され、倫理的に調達された高品質なコーヒーを買入れ、お客様にご提供し、生産者によりよい未来と地球環境に貢献したいと考えています。

《グローバルでの取り組み》

- 2015年までに、私たちが買付けるコーヒーのすべてを責任ある方法で栽培され、倫理的に取引されたものにしていきます。

《スターバックス コーヒー ジャパンの取り組み》

- 毎月「フェアトレードコーヒーの日」を設定し、スターバックスのフェアトレード認証コーヒー、カフェ エスティマ ブレンドをドリップコーヒーとしてご提供します。
- コーヒー生産地の発展に貢献する支援を持续的に行います。

環境面でのリーダーシップ ENVIRONMENTAL STEWARDSHIP

率先して環境負荷を低減し、気候変動対策に取り組み、同じ目標を共有する仲間を増やしていきたいと考えています。

《グローバルでの取り組み》

- 2015年までに、すべてのカップのリユースやリサイクルに取り組んでいきます。
- 省エネや節水、リサイクルやグリーン建築を通じ、環境負荷を低減していきます。

《スターバックス コーヒー ジャパンの取り組み》

- 店内で使用するカップのリユースやリサイクルに取り組みます。
- 店舗のエネルギー・水道の使用量を低減させます。
- 食品廃棄物のリサイクルを促進します。
- 環境配慮型店舗を推進していきます。

コミュニティへの貢献 COMMUNITY INVOLVEMENT

コミュニティの一員として、パートナーがお客様とともに、コミュニティの絆を深める役目を担いたいと考えています。

《グローバルでの取り組み》

- 2015年までに、グローバルで年間100万時間規模のコミュニティ貢献を行っていきます。
- 2015年までに、5万人のユース層をサポートし、支援を受けたユース層がコミュニティに革新をもたらし、コミュニティに貢献していくことをサポートします。

《スターバックス コーヒー ジャパンの取り組み》

- スターバックスのパートナーがコミュニティのニーズを見出し、貢献できる喜びを共有できるプログラムを開発・推進します。
- 店舗のあるコミュニティで、パートナーが自主的に連携し、ニーズに応えるコミュニティ活動の持続と拡充を図ります。

財務データ

損益計算書(要約)

科目	第14期		第15期	
	平成20年4月1日から 平成21年3月31日まで	平成21年4月1日から 平成22年3月31日まで	平成21年3月31日現在	平成22年3月31日現在
売上高	96,592	97,078		
売上原価	28,578	26,647		
売上総利益	68,014	70,431		
販売費及び一般管理費	62,503	63,990		
営業利益	5,511	6,441		
営業外収益	319	269		
営業外費用	54	74		
経常利益	5,776	6,637		
税引前当期純利益	5,554	6,172		
当期純利益	2,985	3,347		

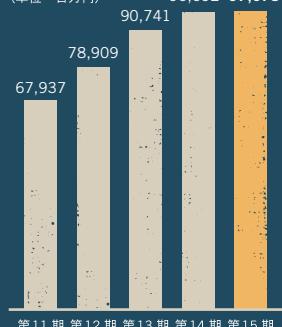
キャッシュ・フロー計算書(要約)

科目	第14期		第15期	
	平成20年4月1日から 平成21年3月31日まで	平成21年4月1日から 平成22年3月31日まで	平成21年3月31日現在	平成22年3月31日現在
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,543	10,294		
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 6,063	△ 2,448		
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 573	△ 2,442		
現金及び現金同等物の増加・減少額	△ 1,093	5,402		
現金及び現金同等物の期首残高	5,049	3,956		
現金及び現金同等物の期末残高	3,956	9,359		

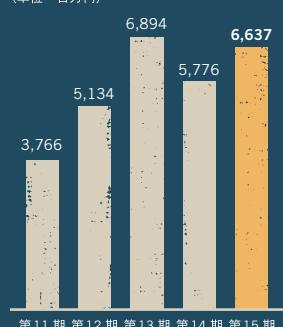
貸借対照表(要約)

科目	第14期		第15期	
	平成21年3月31日現在	平成22年3月31日現在	平成21年3月31日現在	平成22年3月31日現在
資産の部	流動資産	12,193	18,591	
	固定資産	31,590	29,744	
	資産合計	43,783	48,335	
負債の部	流動負債	13,144	14,938	
	固定負債	619	336	
	負債合計	13,763	15,274	
純資産の部	株主資本	30,263	33,204	
	資本金	8,369	8,380	
	資本剰余金	10,944	10,955	
	利益剰余金	10,949	13,868	
	評価・換算差額等	△ 243	△ 143	
	純資産合計	30,020	33,061	
	負債・純資産合計	43,783	48,335	

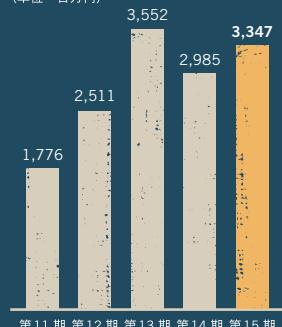
売上高
(単位：百万円)



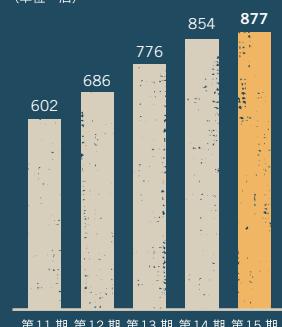
経常利益
(単位：百万円)



当期純利益
(単位：百万円)



期末店舗数
(単位：店)



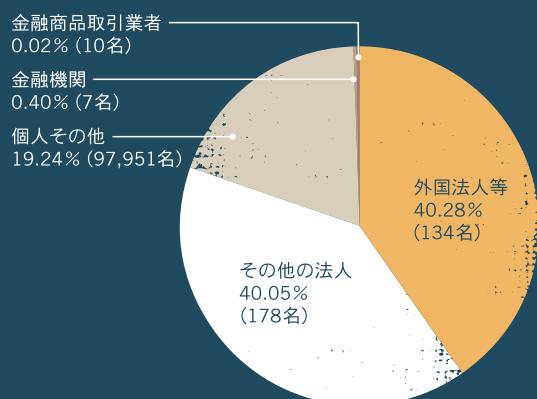
株式データ (平成 22 年 3 月 31 日現在)

発行可能株式総数	4,800,000 株
発行済株式総数	1,427,277 株
株主数	98,280 名

大株主 (上位 10 名)

株主名	持株数(株)	議決権比率(%)
株式会社サザビーリング	570,000	39.93
エスシーアイ・ベンチャーズ・エス・エル	570,000	39.93
角田 雄二	2,576	0.18
日本トラスティ・サービス信託銀行 株式会社(信託口)	1,924	0.13
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社(信託口)	1,560	0.10
資産管理サービス信託銀行 株式会社(年金特金口)	1,213	0.08
株式会社徳島銀行	857	0.06
ビーエヌピーバリバウェルスマネージメント シンガポールプランチ	714	0.05
シンディ	637	0.04
吉村 秀實	500	0.03

所有者別の構成比 (株式数比率)



会社概要 (平成 22 年 3 月 31 日現在)

会社名	スターバックス コーヒー ジャパン 株式会社
所在地	サポートセンター (本部) 〒150-0001 東京都渋谷区神宮前二丁目 22 番 16 号
電話	03-5412-7031 (代表) 03-5412-7481 (IR)
設立	1995 年 10 月 26 日
従業員数	1,879 名
店舗数	877 店舗 ※うちライセンス店舗が 32 店舗あります。
事業内容	コーヒーストアの経営／コーヒーおよび関連商品の販売

取締役・監査役 (平成 22 年 6 月 25 日現在)

代表取締役最高経営責任者(CEO)	岩田 松雄
取締役	角田 雄二
取締役	森 正督
取締役	ジョン・カルバー
取締役	アニー・アンリ・ヤング・スクリブナー
常勤監査役	吉村 秀實
監査役	榎本 幸雄
監査役	石川 順道
監査役	マイケル・イーガー

株主メモ

- 事業年度 4 月 1 日～翌年 3 月 31 日
 定時株主総会 毎年 6 月下旬
 同総会議決権行使
 株主確定日 每年 3 月 31 日
 剰余金の配当受領
 株主確定日 每年 3 月 31 日 (中間配当を行う場合は、毎年 9 月 30 日)
 株主名簿管理人
 特別口座の口座管理機関 〒100-8212 東京都千代田区丸の内 1 丁目 4 番 5 号
 三菱 UFJ 信託銀行株式会社
 電話お問い合わせ・郵便物送付先 〒137-8081 東京都江東区東砂 7 丁目 10 番 11 号
 三菱 UFJ 信託銀行株式会社 証券代行部
 電話 0120-232-711 (通話料無料)
 公告掲載新聞 日本経済新聞
 お知らせ
 - 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱 UFJ 信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
 - 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱 UFJ 信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱 UFJ 信託銀行）にお問合せください。なお、三菱 UFJ 信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
 - 未受領の配当金につきましては、三菱 UFJ 信託銀行本支店でお支払いいたします。



©2010 Starbucks Coffee Company.
All rights reserved. Printed in Japan.